

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	医療栄養学科 医療情報学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18016	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	比較文化論 (Comparative Studies on Culture)				
担当教員名	森 雅文				
授業の概要及び到達目標					
<p>「食」と「健康」をめぐる文化の比較を通して、保健医療の文化・社会的側面について学習する。また、日本の現状を捉えなおして、これからの社会を支える保健文化の可能性を考察する。現在の「食」と「健康」の常識の多くは、成長を目指した近代社会の形成とともに作られてきたが、超高齢社会を迎える日本では、新しい考え方に基づいた「食」と「健康」のあり方が求められている。そのヒントを、比較文化の視点から探していく。</p> <p>講義では、異なる時代や異文化の諸事例を紹介するが、雑多な知識を得ることは目的ではない。その見識をきっかけにして、自らが基盤としている文化の当たり前を見つめ直す。自らが目指す保健医療的な実践を「文化」という視点から振り返り、そのリアリティ（まさにそうだという感じ）がどのように創られているのかを問い直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。</p>					
準備学習等					
<p>予習は、毎回の授業時に指示する。次回テーマに沿った用語や事項についての下調べや、身近な経験を文化として振り返るエクササイズを課して、自らの「当たり前」や異文化に向けられる「偏見」を考え直す機会としたい。</p> <p>復習は、自らの不足を自覚して補う学生の営みと捉えて、講義内容の理解に努めてください。「学ぶ」ことは他人から課せられる作業ではありません。この授業のテストは講義内容の理解度を計るものであり、それが低ければ十分な学習がなかったものと判断します。既知の内容であれば別ですが、理解が至らないときは、その程度に応じた自発的な学習が必要です。興味を持った内容や新たな疑問について発展的な学習に向かうこともあるでしょう。多様な学生を前にして、一律の課題で拘束することは馬鹿げています。大学生の分別として学習への自主性を保ち、理解への試行錯誤を各自で実践してください。むろん、その過程での質問やアドバイスの要求は遠慮なくしてください。</p>					
成績評価の方法	<p>授業の進捗に合わせたテスト：中間テスト（40％）・最終テスト（45％） 前半のテストに付随する課題（5％）、最終のレポート課題（10％） 授業時の質疑応答や任意の提出物（コメントペーパーや発展的学習の成果など）は、その内容評価により加算点として考慮する。</p>				
テキスト	<p>特定の教科書は使わない。 毎回の授業時にプリント資料を配付する。</p>				

参考図書	授業時の配布プリントで適宜に紹介する。
備考	<p>授業は講義形式。質疑応答を交えてすすめるので、授業中の質問や意見なども歓迎する。自らで調べて考えるという心構えをもって、授業に臨んでほしい。また、授業終了後も、質問等は教室で受け付ける。前半のテストは翌週に返却するので復習に役立ててください。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、別途明示されている各学科の履修系統図を確認してください。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回：文化としての「食」と「健康」 —比較文化のまなざし— 文化の多様性を踏まえて自文化の自明性（当たり前さ）を問い直す比較文化の基本的な手法と概念と、現代社会で求められる自己と他者（異文化）への妥当的なまなざしを学ぶ。</p> <p>第2回：食べ物と文化の秩序 —穢れと衛生— 食えることは自己にとっての異物を身体に取り込む危険を帯びた行為だが、それを克服するために人類が築いてきた「食」と文化的な秩序や規範との強い結びつきや、豊かな儀礼の文化について理解を深める。</p> <p>第3回：食べ物とコミュニティ —分けることのカ— 食べ物を分配する利他的な行動は人類に特徴的なものである。家族から国家に至るさまざまな連帯の形成・維持を焦点にして、食の分配が創り出す絆の文化について学習する。</p> <p>第4回：社会防衛のテクノロジー —公衆衛生の文化史— 古代日本を支えた陰陽道・風水・仏教から近代公衆衛生の登場までの大きな歴史の流れを捉えて、保健医療を時代のコスモロジー（人間や環境のあり方やその関係性の捉え方）が反映された文化として捉えるまなざしを学習する。</p> <p>第5回：東洋の身体 —養生と漢方の文化— 近世（江戸時代）の制度的医療であった「漢方」の身体観や「養生」の文化を捉えて、西洋医学の身体観や健康観（第6回）との比較を目指す。</p> <p>第6回：近代文化としての衛生と栄養 —肉ジャガから栄養素へ— 「栄養」や「衛生」には、近代国家を支える社会制度という側面がある。この価値観の文化と普及の歴史を捉えて、「健康」の時代性と政治性を考察する。</p> <p>第7回：文化としての「主食」 —創られる伝統— 「昔から日本人の主食は米」という見識がどのように創られ広められたのかを捉えて、同時に「主食」という時代の文化を相対化することで、「食」と社会のアイデンティティの関連について学習する。</p> <p>第8回：健康と栄養のパラダイム・シフト 人口減少と超高齢化を迎える21世紀の日本における「健康」のあり方を捉えて、それを支える新たな食と保健医療の可能性を考察する。</p> <p>※ 授業の進捗状況や、受講者の関心にあわせて内容の一部を変更する場合がある。</p>	